歩～あゆみ～

兵庫県立神戸北高等学校
野球部

2021年（令和3年）
第5号

発行日
4月19日（月）

発行
野球部スタッフ一同

編集者
宮井　一真

部活動目的
～魅力的な大人になる～

所在地
神戸市北区唐櫃台
2丁目41番1号

電話番号
078（981）0131

春季神戸地区予選、初戦敗退

気持ちは、夏へ

◆春季神戸地区予選、初戦で滝川高校との試合であった。結果は、2－9。7回コールド負け。悔しさしか残っていない。投手力の底上げ、勝負所でのミス、チャンスでの1本が出なかった、等の反省が上がっていたが、収穫も大きい。打力で私学に力負けしていない、練習で課題として取り組んだことは間違っていなかった。今は、反省しなければならないが、夏に向けて下を向いている場合ではない。悔しいなら練習すればいい、強くなろう。勝とう。後悔を残さぬように、日々前進。

新野将司、神戸北高校での1年を振り返る

31日の練習を最後に

◆3月31日をもって、今年度から野球部部長をして下さった新野先生が神戸北高校での活動を終える。教員生活初めての野球部顧問、右も左も分からない、そんな中、朝早くから夜遅くまで関わってくれた。4月からは、淡路の洲本実業高校で力を発揮される。

◆現役時代は西宮南高校で外野手（主にセンター）として活躍。引退後、教員を志し、近畿大学へ進学。尼崎西高校、伊川谷北高校を経て、2020年4月、神戸北高校に赴任。シートファンゴを見て、楽しそうに野球をする姿が印象的だったと語る。1年間で最も印象に残っているのは、夏の校内合宿。学生時代を含め、初の部活動での宿泊。楽しさも苦しさも思い知った。心に残る試合は秋季大会、1回戦の東灘戦。練習試合では見たことのない、選手たちの執念を目の当たりにした。◆新天地では、再び野球に携わる。この1年間で学んだことを生かし、監督と共にチームの勝利に貢献したいと意気込む。◆座右の銘は「有言実行」。自分の発言には責任を持ちたいと新年度からの活躍を誓う。

神戸北高校での活動を終える新野先生。「さみしいな」と別れを惜しむ。

最後に

◆先日伝えたように4月からの異動が決まっている。なので、今回の部活動通信で最後の掲載となる。そんな最後の部活動通信で全員に伝えたいことがある。それは、お世話になった人に対しての恩を忘れてはいけないということである。◆私自身、教員採用試験は5回目で合格できた。それまでに数多くの人に勉強会や面接練習をしていただいている。一次試験、二次試験等の試験が終わるたびに試験のでき具合の報告をしている。また合否が分かり次第すぐに報告もしている。それはそのときに勤務している高校の先生だけでなく昨年度以前の勤務校の先生や、教育実習の際にお世話になった先生にも報告をしている。◆このことから恩を忘れないということは、近況を報告することが必要であると私は考えている。特に3年生なら夏の大会の結果、進路先のことは中学校の先生や神戸北高校の先生などに、結果が分かり次第報告をしてほしい。お世話になった期間がどんなに短くても、そういう人のつながりを大事にしてほしい。そして、その報告を私にもしてもらえたらと思う◆最後になるが、君たちとともに過ごせた一年間を忘れることなく、4月からの教員生活を過ごしていきたい。再会したときに成長した姿を期待している。一年間ありがとう。

（新野将司）

新野先生へ

◆前略◆新しい生活が始まり、数日が経ちました。いかがお過ごしでしょうか。こちらは新野ロスの真っ只中にいます。当たり前のようにしていただいていた仕事が顕在化し、慌ただしく年度初めを過ごしています。部員たちは白の「アルト」を見る度に新野先生の姿を探すそうです。先生であれば、運転席に人影が見えないのですが、見えてしまったときにたいへん切ない気持ちになるそうです。「これは新野先生ではない…」と◆冗談はさておき、3月30日の敗戦のあと、先生が仰っていたことについて僭越ながらお伝えさせてください。「自分には自分に与えられた道がある。天与の尊い道がある。どんな道かは知らないが、ほかの人には歩めない。自分だけしか歩めない、二度と歩めぬかけがえのないこの道。広い時もある。狭い時もある。上りもあれば、下りもある。坦々とした時もあれば、掻き分け掻き分け汗するときもある。この道が果たしてよいのか悪いのか、思案にあまるときもあろう。しかし、所詮はこの道しかないのではないか。諦めろと言うのではない。今立っているこの道、今歩んでいるこの道、とにかくこの道を休まず歩むことである。自分だけしか歩めない大事な道ではないか。自分だけに与えられているかけがえのないこの道ではないか。他人の道に心を奪われ、思案にくれて立ちすくんでいても、道は少しも開けない。道を開くためにはまず歩まねばならぬ。心を定め、懸命に歩まねばならぬ。それがたとえ遠い道のように思えても、休まず歩む姿からは必ず新たな道が開けてくる、深い喜びも生まれてくる」と松下幸之助氏が仰っていました。◆おかげさまで今、部員たちは少しずつではあるものの、先生の姿から学びそれぞれが自分に出来ることを表現できるようになってきています。代走の場面では、自主的に足を作ったり、ノックアウトされた後にすぐ大きな声を出せたり、今出来ることを懸命に行動に移す姿が見られるようになりました。まだまだ、物足りないところはあるものの、少しずつ役割を見つけ、磨き、次に先生にお会いするときにはより隙の少ないチームとなれるように取り組むことを約束します。その時まで楽しみにしていてください。1年間ありがとうございました。◆草々

（福本友貴）

情熱

◆とうとう長い冬が明け、オープン戦が始まった。そこで、「情熱」について少し話をする。目標を成就する為には「情熱」が必要である。いくら目標があっても、そこへ通じる道のりがなければ到達できない。道のりを太くする為に「情熱」が必要不可欠であり、その情熱を別の言葉にすれば、「本当に好き」かどうかである。ヒットを打てば嬉しい。良い球を投げれば気持ちいい。試合に勝ったら楽しい。競技者はこの結果における楽しさを追い求めワクワクしていると言っても過言ではない。◆その他にも結果だけで好きにならず、野球をする事を好きになれば、「情熱」が溢れるはず。すなわち、君たち自身、チーム、そして野球が本当に好きかどうかである。絶体絶命のピンチの時、どう楽しみながら乗り越えるかを考えて欲しい。この夏の大会までに何度も死地に立つだろう。その時に君たちの「情熱」が試されると思う。さぁ考えただけで楽しみだ。

（木村建斗）

宮井のつぶやき

◆春季大会を終えて◆まずは春季大会お疲れ様。1・2月からの厳しい冬季練習に取り組んできたと思う。練習の質は非常に高かったとスタッフ一同関心している。◆「あんなに頑張ったのに」と思うかもしれないが、練習を頑張ったからと言って、試合に勝てるわけではない。これが勝負の厳しさであり、楽しさでもある。◆私の経験を少し披露すると、冬季練習明けのOP戦、春季大会までひたすら打ちまくっていた。自分のやってきた努力は無駄でないと信じて疑わなかった。迎えた春季大会。始まるまでは、調子は絶好調。パワプロ君で表現するなら、ピンク色のノリノリの状態。しかし、春季大会を終えて8打数0安打。一気に自信を失った。いくらOP戦で打っても公式戦で打たなければ意味がない。そこから、練習に取り組む姿勢を変えた。必死になってバットを振った。◆君たちもきっと結果が欲しいと思う。個人の結果、チームの結果共に求めて欲しい。打てなかったら、抑えられなかったら、勝てなかったら必死に練習すればいい。それだけで良いのではないのか。もちろん考えることも大変重要なことではあるが、まずは必死になって練習する。それに尽きると私は思う。◆夏の大会まで残り4か月。期間だけ見ると長い。しかし、あっという間に選手権大会の当日が来る。その時に「こうして良ければよかった」という不安要素ができるだけ無いように4月からギアを入れ替えて、夏まで突っ走っていこう。そして、チーム目標であるベスト4を達成してやろう。

校歌

市土の森なる
松高く
峠山峡の水澄みて
唐櫃の丘に
そびえ立つ
我が学び舎に
栄あれ
ああ、我らが
神戸北高校

校訓

実　親　規　誠
践　愛　律　実